

熊本・鞠智城跡

- |               |  |
|---------------|--|
| 所在地           | 熊本県鹿本郡菊鹿町大字米原  |
| 調査期間          | 第一八次調査 一九九六年（平8）四月～一九九七年三月   |
| 発掘機関          | 熊本県教育庁文化課  |
| 調査担当者         | 西住欣一郎  |
| 遺跡の種類         | 古代山城   |
| 遺跡の年代         | 縄文時代後期～室町時代  |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 鞠智城跡は県北の菊池川の支流である木野川東岸の標高一四〇m前後の米原台地上に位置する。遺跡の中心となるのは古代山城であり、他の時代の遺構・遺物は点在する程度である。発掘調査は一九六七年に第一次調査を実施し、今回の調査は第一八次になる。山城の東端部は崖で、北端部から西端部にかけた（八方ヶ岳・菊池） |

けては、尾根上に土壘がみられる。南端部の三ヵ所には門礎跡があり、それらを繋ぐ状態で土壘が延びており、土壘の外側は崖になっている。崖や土壘に囲まれた内城域は約五五haあり、その周囲に約六五haの外縁地区が想定されている。発掘調査は内城地区を中心として実施され、ほぼ中央部平坦面に六五棟の建物が現在確認されている（掘立柱建物四三棟・礎石建物一九棟・掘立柱礎石併用建物三棟）。これらの建物の時期は七世紀後半～九世紀後半と考えている。柱列が八角形に三重と二重に巡る二棟の建物の存在が特異である。建物が集中する地域に近接した北西側に、谷の自然地形を利用した池（約五三〇〇m<sup>2</sup>）が確認できた。池内部の調査は部分的であり、詳細な構造は現在のところ不明である。木簡一点がこの池の粘土層より出土した。粘土層には七世紀後半～八世紀前半の土師器・須恵器

8  
木簡の釈文・内容

(1)

134×26×5 032



裏面には僅かに刃物を入れて折った痕跡が残つており、面調整を施しておらず、墨痕も確認できない。表面の頭部にカット面がある。

木簡の釈読は、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示による。

(西住欣一郎)

## 宮崎・前田遺跡

所在地 宮崎市大字新名爪字前田

調査期間 一九九五年(平7)一一月～一九九六年一一月

発掘機関 宮崎県埋蔵文化財センター

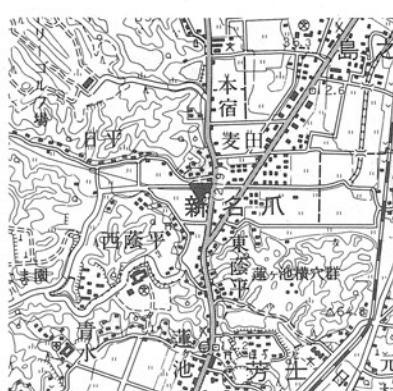
調査担当者 東 憲章

遺跡の種類 水田跡

6 遺跡の年代 古墳時代・平安時代・中世・近世  
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

国道一〇号宮崎北バイパス建設に先立つて発掘調査が行なわれた。調査地周辺は、平安時代中期に宇佐宮領新名爪別符が置かれた地域として知られる。

調査では一一～一二世紀



(宮崎)

に噴出したと思われる霧島火山起源の降下軽石の堆積が見られ、その直下から水田遺構が検出されている。その後、中世・近世を通し絶え間なく水田耕作が行なわれ現在に至っている。ま